

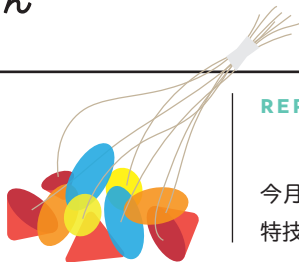
おやつ

ちょっと疲れた時、友達と楽しくおしゃべりしたい時、嫌なことがあった時、私たちはいつもおやつに助けられてる？

LIFESTYLE

「おやつ」の思い出

昭和30年代、「駄菓子屋さん」の思い出ばなし P2



REPORT

撮り鉄 Trainspotter

今月は撮り鉄・阿久根くん！
特技や趣味を載せたいひと、募集中です P3



BOOK

あんぱんを たべた人の話

どうしてもなくお腹を空かせていたら、空からいきなり美味しそうな顔をした人がやってきて、こう言ったんだ。「ぼくのかをおたべ」って。いや、それは無理でしょ。だって、顔だもん。それに、その顔が今、私にしゃべりかけてるわけだし。いくら美味しそうな顔をしているからって、顔を食べるのはちょっと……。でも、猛烈にお腹が空いているし、このまま何も

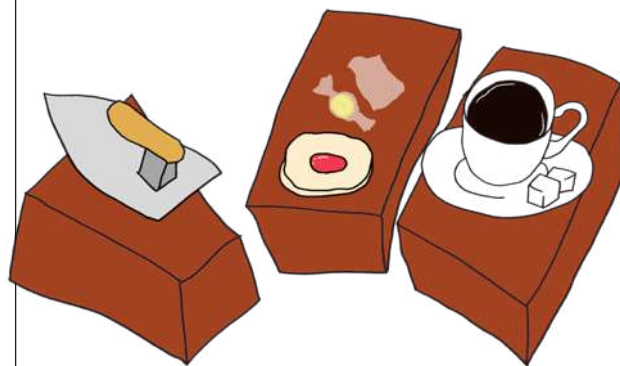
食べないでいると、本当に死んでしまう。それに、冗談じゃなくて、どうやら本気で「おたべ」って言ってるみたいだ。だから、私は、思い切ってその人の顔を、ほんの少しだけかじってみた。あ、あんぱんだ！ しかも美味しい！ そうおもった瞬間、私はもう我を忘れて、その人の顔にむしゃぶりついてた。ふと、気がつくと、その人の顔は半分になっていたんだ。ああ、私はなんてことをしてしまったんだろう。いくら、「ぼくのかをおたべ」って言ってくれたとしても、こんな無惨な姿にってしまったのはもう取り返しがつかない……。



あんぱんまん

やなせたかし 作・絵
フレーベル館
¥1,397

LETTER



3時のおやつ

我が家の子どもたちも、3時になったらおやつをせがんだりする。夕食を食べ終わったらすぐに「デザートはー？」と聞いてくる。お腹いっぱいなんじゃないのか？ というわけか、おやつは別腹。

いつぞやか、3時になったらおやつを食べるとするのは、どういうわけなのか考えたことがあった。答えは、小学校を作る手伝いにアフリカに行ったときにわかった。みんなで、レンガを作って、乾かして、運んでいたのだが、10時と3時に甘いお茶の時間がやってくる。僕たちは、もっと働きたいのに、しばらく休憩で、むず痒い。が、みんなにとっては、この時間が大切な時間。お茶を飲んで楽しく話して、できればレンガなんか作りたくないんだ。いや、はや、そのとおりだと僕も思ったのだ。

この絵本は、小川からながれてきた3時のお茶への招待状と地図を頼りに、お茶をしにいく仲間たちの物語。毎日

の中に、ちょっとした楽しみはひとつでも多くあるといい。



3じのお茶に きてください

こだまともこ 作/
なかのひろたか 絵
福音館書店 / ¥1,100

BOOK

動物たちの おやつは？

木苺がたくさんできたので、くまとりすは木苺つみに出かけます。自然の中のおやつです。「きいちご ぼちん ぼちん」なってるか なってるよ すっぱいか あまいだ

ろ」こんな言葉を紡ぎ出す岸田裕子さんはすごいなあ。

「ぼちん ぼちん」って思いつかないですね。くまは大きなナグにたくさん、りすは小さなリュックに1つだけ、自分が満足できる分だけとって、ふたりで木苺の時間を味わいます。違うふたりだけど、好きなものを一緒に楽しむっていいですね。



くまとりすの おやつ

きしだえりこ ぶん
ほりうちせいいち、ほりうちもみこ え
福音館書店 / ¥990



BOOK

想像の味のレシピ

絵本の中に出てくる食べ物って、すごく魅力的に見えませんか？ それはたぶん絵本の中の登場人物がと

ってもおいしそうに食べているからかもしれません。

この本は、子どもの頃に絵本を読んでもらって憧れたあの菓子が作れてしまうレシピブックです。やっぱりぐりとぐらのあの金色のパンケーキは永遠の憧れです。この本でお菓子を作ってみてみんなで食べれば、思い出話に花が咲くこと間違いなしです。

絵本のお菓子

太田さちか
マイルスタッフ / ¥1,760



LIFESTYLE

「おやつ」の思い出

文 つくば子どもと教育相談センター
穂積妙子
イラスト 石田愛実



私が子どもだった昭和30年代の思い出です。町内には小さな駄菓子屋さんがありました。子どもたちは、親から小銭を貰っては、駄菓子屋さんに行くのが大きな楽しみでした。商品は1円のものから高くても10円くらいのものでしたが、一度に10円使える子どもはあまりいなかったと思います。ですが、私の母は厳しい人だったので、駄菓子屋さんにいくことをよく思っていませんでした。それで毎日のように駄菓子屋さんに入りできる近所の友達をいつもうらやましく思っていました。ある時、母が何かの用事で長く家を空けたことがありました。私は「勝手に開けてはいけない」と言われていた貯金箱を開けて、駄菓子屋さんに走りました。当時のお金で30円分くらいお菓子を買ったと記憶していますが、何を買ったかまでは記憶にありません。当然母に見つかってひどく叱られ

たことは、今でもよく覚えています。最近駄菓子屋さんをテーマにした児童書が大人気だそうですね。「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」という本ですが、高校生は読んでないかな？子ども向けの演劇にもなったそうです。今の若い皆さんは「駄菓子屋さん」に行っているのかしら、それとも見たこともないのかな。今はお菓子はコンビニで買うのかな。と昔を懐かしみながら考えています。余市の町には「駄菓子屋さん」はありますか？あったらちょっと覗いてみてください。



穂積妙子 | Taeko Hozumi
つくば子どもと教育相談センター代表
(2009年～) 発達社会科学修士 臨床
発達心理士
つくば市社会福祉協議会子育て相談相談員
(2020年～) フリースクール「むすびつくばライズ学園」
運営協議会委員・相談員

LIFESTYLE



笑顔とおかし

文・写真 庄司証

「庄司さん、これ…みんなで食べてほしいと思って…」そう言った小学生の手には、きれいな紙に包まれた有名なおかしの箱が握られている。そういえば、長期休みに入る前に、その子が家族と旅行することが楽しみだと話していた。そんなことを思い出していると、隣で母親が苦笑いをしながら「初めて家族以外のお土産を買ったんです」と、こっそり事情を話してくれた。いつも一緒に過ごしているお兄さんお姉さんが、旅行のお土産を持ってくるんだ、と話していたこと。自分も「お土産」を買ってみたいと思っていたこと。そのためにお小遣いをためていたこと。みんなが食べられるようにと吟味に吟味を重ねすぎて、危うく時間に遅れてしまいそうなこと。その子は「余計なことを言うな」と言わんばかりに母親を見るが、本気で怒っているわけではなさそうだ。その子は、クラスになじめなくて、とフリースクールの利用を始めた。確かに、みんなでゲームをしていると、ときどき感情があふれてしまうことがあった。そうすると、先輩達が優しくわかりやすく教えてくれるのだ。ゲームの攻略法も、イライラの解消法も。「毎日、楽しそうにお兄さんお姉さんの話ばかりしてるんですよ」とニコニコしながら話す母親に、その子はいかに恥ずかしくなっているのところに逃げてしまった。私はその子に「みんなに声かけられる？」と聞くと、「旅行に行ってきた！みんなで食べてください！」と緊張しながら大きな声を出す。そして、その勢いのまま包装をびりびりと破っていく。箱を開けると、一つ、また一つとおかしが減っていく。私が「ありがとうね。」という、みんなも「ありがとう」とその子に声をかける。見ると、何とも言えない甘い笑顔だ。「子どもを笑顔に」と今から約10年前に始めたフリースクールすまいる。笑顔のそばには「おかし」があった。



庄司証 | Akashi Shoji
(一社) 函館圏フリースクールすまいるの代表理事。七飯町出身。北海道教育大学大学院卒業後、七飯町のフリースクールを経て、「函館圏フリースクールすまいる」を設立。学生時代から、不登校や引きこもりの進学や相談等の支援を行っている。

LIFESTYLE



最高のおやつ「OKINAWA」

文・写真 鈴木沙代

私は中学生まで関東地方で過ごしていたが、縁あって高校3年間を北海道で過ごした。そして高校を卒業してからは、ほとんどの時間を北海道とは真逆の沖縄で毎日過ごしてきた。初めて沖縄を訪れたのは、たぶん保育園の頃だと記憶している。青い空、透き通るような海に感動した。何もかもが素敵に見えて、その時の家族旅行は忘れることのできない楽しい思い出として、私の中に刻まれたのだ。子どもの頃、みんなが将来の夢として「宇宙飛行士」や「アナウンサー」をあげるように、私の夢は「沖縄への移住」であった。あの時、体が震えるような感動を覚えた沖縄に住みたい、その気持ちは萎むことなく私の心の中に残り続けていたのだ。高校を卒業した私は沖縄に住むべく、迷うことなく



ダイビングのインストラクターへの道を選んだ。楽しい毎日だった。機材は重いし、やることはいっぱいあるし毎日が大変だったが、それでも「沖縄での生活」は私をワクワクさせたし充実した日々だった。そしてインストラクターとしてのライセンスを取得した私は本格的に島生活へ突入していく。しかし、現実決して甘いものではなかった。目の前に青い海も、広い空も広がっているのに、私は疲れ果てていた。休みのないキツイ仕事に、大変な毎日の生活。そんな時にそっとコロナ禍が始まった。時を同じくして、ずっと私を可愛がってくれた祖母が倒れたとの連絡を受ける。大好きな沖縄、せっかく取ったインストラクターの資格。後ろ髪を引かれながら私は地元に戻ることを決めた。あれから2年半、私は再び沖縄へ帰ってきた。なんともいえない沖縄ならではの空気感、青い海も、広い空も大好きなこの場所へ。離れてみて分かったことがあった。決してなきゃいけない訳ではないおやつ、でも、あるとちょっと嬉しいおやつ、甘いものがちょっと苦手でもそんなに食べない私にとって、日々の自分を癒すご褒美としてのおやつ。それが私にとって「OKINAWA」だった。今は別の仕事をしながら、時々インストラクターの仕事もしている。大好きな場所でやりたいことが出来る今こそ、私にとってのご褒美タイム。



鈴木沙代 | Sayo Suzuki
埼玉草加市出身47期生。在学中は生徒会副会長。卒業後に沖縄のダイビング専門学校に入学。現在は、フリーのダイビングインストラクターとして活動しており、沖縄県うるま市在住。

おやつの本と音楽と映画



チョコレートドーナツ

トラヴィス・ファイン監督

タイトルのような甘い物語ではありません。1970年代アメリカの物語。ゲイカップルとダウン症の男の子との、家族のようなつながりの話。非常に差別的な扱われ方に心痛めますが、そんな中美味しそうにドーナツを食べているみんなの表情が印象的。(今堀浩)



こぐまのケーキ屋さん

カメントツ

こぐまが経営するケーキ屋さん。カウンターからひょっこり顔を出し、ケーキを「にじゅうえんですか?」と安すぎる値段で提示したり、100円玉を渡してみると、とっても嬉しそうに喜んでくれたり。そんなこぐまの可愛さに、心があたたかくなるお話です。(2B 松川智郁)



ポケットモンスター XY

株式会社ポケモン

XYのポケモン用のおやつ、ポフレについて書こうと思います。ポフレはミニゲームで手に入れることができ、出来によってゴージャスになっていきます。しかしゴージャスなポフレは勿体なくてポケモンにあげられませんでした。申し訳なかったと思います。(3A 石田大樹)



ちびくろサンボ

ヘレン・バンナーマン

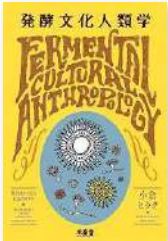
虎のバターで作ったパンケーキがとっても美味しそうで、お母さんに作ってもらったけど、絵本のパンケーキと我が家のホットケーキはなんだか別物で、憧れでした。大人になって、似たようなパンケーキが食べれるようになり嬉しいです。(中村希絵子)



ショコラの魔法

みづほ梨乃

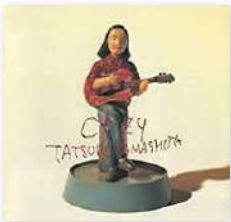
森の中にあるチョコレート屋「ショコラ・ノワール」というお店には食べると願いが叶うチョコレートを作っている哀川ショコラという魔女がいます。願いを叶える代わりに大切なものを貰うというストーリーで心がスッパリするお話です。(2A 工藤莉奈)



発酵文化人類学

小倉ヒラク

最近、発酵スイーツのやさしい甘さが妙に美味しく感じて、食べると幸せな気持ちになる。タイトルに惹かれて手にとったが、一気に読めた。微生物が人間に役立つ働きをして、それが絶妙な旨味にもなる。人類の知恵！(妹尾克利)



DONUT SONG

山下達郎

ミスドでずっとかかっている曲。この曲を聴いたらドーナツを食べたくなります。というよりつい、ミスドに行きたくります。そしてつい歌ってしまいます♪最近菅田将暉さんがカバーしてまたブレイクしているとか……(菅野瑞希)



シュガー・ラッシュ

リッチ・ムーア監督

ゲームの世界で主人公のラルフとヒロインのヴァネロペが協力して迷った世界から脱出する話なのですが、お菓子がいっぱい出てくるポップな世界とは対照的に、感動するストーリーで心に残っています。(3B 伊藤華那)



ヘンゼルとグレーテル

ヴィルヘルム・グリム

長引く飢饉により口減らしの為に親が子供を捨てるという話。捨てられた兄妹はおかしで作られた家を発見し、中にいた老婆にもてなされます。しかし、老婆にはある目的がありました。魅力的な話には必ず何か裏があるのだということが学べる作品です。(1B 板東花恋)



ぼらかもん 第3話 ひとつもち

ヨシノ サツキ

人と関わらず書道に集中したいと思っていた半田が島でできた弟子のために、墨汁の買い物ついでとはいえ、駄菓子の好みを考えて買おうとして半田の人間の成長を感じて、とても印象に残りました。(1A 板垣侑汰)



flat

青桐ナツ

調理実習がないだけで学校をサガるお菓子好きの超マイペース自由人の主人公が、ゆるーくほのぼのと自分を見直していく姿が面白いです。悩みがあっても、主人公みたいに菓子を食べながら気楽に自分なりの答えを探すのも悪くないなって思いました。(福田綱基)



撮り鉄 Trainspotter

1年B組 阿久根春輝

物心がついた時には親と鉄道に乗り、中学校入学後に鉄道に乗りすぎたため、道外から北海道に来て勉強とリラックスを両立する生活を目指す。

鉄道、撮りました。

- 1. 出発を待つ京王ライナー
- 2. 桜と阪急電車
- 3. 新大阪駅に停車中の700系レールスター
- 4. 今は無い651系
- 5. 今は無い快速アクティ
- 6. 相鉄線横浜ネイビープール







LIFESTYLE



余市駅正面にあるニッカウスキー会館を抜け、余市川にほど近い裏門から抜け出たところにある「EBIJIN（エビジン）」。テイクアウトも可能な鹿肉専門店である。オーナーシェフの明念大雄さんは、なんと自ら狩猟をするハンターでもあった。現在は後輩ハンターのサポートに徹しているが、自らの経験を基に余市や後志エリアで仕留めた2歳までのエゾシカを狩猟後2時間以内に素早く処理し、熟成させることにこだわる。「おいしく食べて食害を減らすには、狩猟と処理の知識、スキルのレベルアップが肝心です。」と語り、北海道の自然への愛情と元ハンターの自負を感じさせてくれる。鹿肉100%のパテに塩こしょうと自家製ソースをたっぷり絡めたハンバーガーは、クセがなく実に美味である。「クセが強い」とイメージされることが多い鹿肉だが、素早くそして丁寧に処理することで「鹿肉の概念が変わる」と自信を持って送り出される鹿肉バーガー。ぜひお試しあれ！

Menu	
エビジンオリジナルバーガー	¥1,200
エビジンカレーバーガー	¥1,200
《数量限定》エビジンプレミアムバーガー ステージ1	¥1,500
《数量限定》エビジンプレミアムバーガー ステージ2	¥1,750
ローズ、モモ、シンタマ（冷凍）やBBQ用鹿肉（冷凍）その他、期間限定商品の販売もしています。	



EBIJIN
余市町黒川町9丁目60-1
電話：080-5727-0888
営業時間：11:00～18:00
定休日：無休
季節により営業時間が変わることがあります。



LIFESTYLE

懐かしの冷菓

文 ひまわり下宿 大村ひとみ
イラスト 石田愛実

今年の夏は、異常気象による暑さのため、毎日、アイスクャンディーを食べて過ごしました。こんなに食べたのは何十年ぶりだったでしょうか？

私が子どもの頃、昭和40年代のことになりますが、夏休みに朝のラジオ体操に出席すると帰りにアイスクャンディーを1本、夜になるとそれぞれの町内会で盆踊り大会を開催し、参加した子どもたちにはアイスクャンディーが配られたものでした。近所の友達や弟妹とおやつ目当てに、毎日参加した事が懐かしく思い出されます。

もう一つ思い出される冷菓があります。それはかき氷。夏になると和菓子屋さんの店先に「氷」の旗が下げられ、お盆のお墓参りの帰り道に家族と一緒に食べに行ったものでした。

今時のかき氷は、とても豪華なものになっていますが、あの頃はいちご、メロン、レモン味のシロップを氷にかけたシンプルなものでした。当時はかき氷ではなく、「氷水」と言っていました。ちょっと贅沢をして、練乳をかけて食べた時は、とても幸せな気分になりました。

その後はお祭りやイベントの屋台で、かき氷が売られるようになり、和菓子屋さんの氷水がなくなってしまい、もう食べることができないのが、とても残念で仕方ありません。10月に入り、街もすっかり秋めいて、一月前の暑さが嘘のように感じられます。私は、毎日栗拾いに出かけ、栗さん、甘露煮、渋川煮と、栗スイーツ作りにはまっています。



大村ひとみ | Hitomi Omura
余市町で生まれ、40歳の時に知人の紹介で北星余市高校男子寮の寮母として家族と余市に戻り、10代の男の子との悪戦苦闘の日々を続け今年25年目を迎え、現在に至ります。

COLUMN



カメラマン美穂子
表紙写真の
「おまの裏」

今回は、星しんぶん表紙初の先生オンリー一回！安河内先生、塚原先生、紺野先生は平成と共にこの学校に着任されて以来、30年以上も北星余市と共に歩んでこられました。それに安河内先生と塚原先生は、大学も同じ、そして現在はうちも隣同士という濃密なお付き合いなのです。ちなみにこの中面の写真は、マグカップをもつ手の位置をどこに持ってくるか、お二人で相談されているシーン。仲の良さが伝わってきますね！そんなお互いの気心が知れた先生方には、今回のテーマに合わせて、それぞれの好きなおやつを持ってきてもらいました。

安河内先生が用意してくださったのは、エクレア。朝から生徒に狙われて、撮影がはじまるまで食べられないよう、死守するのに苦労したそうです。ひと口かぶりついた時にはみ出た、クリームをぬぐう手の仕草に臨場感が出て、より美味しそうな感じが伝わってきました。紺野先生

生から事前に「塚原先生は甘いもの苦手だよ」と聞いていたのですが、登場したのはマイカップに入ったコーヒー。お茶もおやつも、ほっと一息ティータイムになくてはならない存在ですね。ひとくちすすった時に立ちのぼった湯気で曇ったメガネが、熱々のコーヒーを彷彿とさせます。それから紺野先生が持ってきてくださったのは、魚肉ソーセージ！そういえば、私も小さいとき、魚肉ソーセージが好きだったなあ……と思い出しました。学校から帰ってきて冷蔵庫を開け、ソーセージにかぶりつくなんとも幸せな瞬間。あのフィルム、上手にめくれないんだよなあ……。そういえばなぜソーセージの両端には金具が付いていたんだろう……。その金具を捨てるのがもったいなくて、なぜか集めていたなあ……。なんて考えていると途端に恋しくなってきた、撮影が終わった後、こっそり魚肉ソーセージを買いに行きました(笑)



辻田美穂子 | Mihoko Tsujita
大阪から移住した写真家。北星余市でのたくさんの出会いを通して人生が変わったひとりです。今年の春に余市からせたなに引っ越して子育てしながら、時々赤ちゃんを背負って撮影に出かけています。



REPORT

生徒会長就任

2年B組 山本舞咲斗

「北星余市高校」という学校を盛り上げたいと考えた時に、58期生徒会長をできるのは、「僕しかない!」そう思い立候補しました。

その人自身に元気がなければみんなの活気を引き出すことは出来ないと考え、僕のように明るく元気な人が、みんなのリーダーとして先頭に立つのが適任だと思ったからです。

しかし、いざ自分が生徒会に参加しようと考えた時に、朝は誰よりも早く、部活にも忙しくて出れないのに帰りも一番遅く帰ってくる生徒会の先輩たちの姿を忙しそうだなと見ていたこと、時には辛そうだなと考えたのも事実です。

しかし、それでも「やろう」と思えたのは、生徒会活動が学年の壁を超え、たくさんの人と関わる大きなチャンスを作っていると知ったからです。そしてどんなことがあっても、みんなの力になれるように明るく元気にやり切りたいと考えたからです。



これまでそのようなことをやったこともない自分が、なぜそのような気持ちになったのか。それは自分が1年生の時、参加した生徒会企画で「怖そうだな」と思い込んでいた先輩が、全然違って気さくで話しやすかったという気づきや、放課後のスポーツ企画で学年もバラバラで話したこともない先輩と同じチームになることで、少しずつ関係が広がっていき、周りの人と関わることを楽しいと思えるようになった経験ができた為です。

今は生徒会活動で忙しい毎日を過ごしています。先輩たちを見てきたし、予想もしていたけど、やること、やりたいことが一杯あり、帰り道に「なんでこんな大変なんだ?」とか、「部活にも出れない毎日は辛い」とか思うこともあります。それでも、先輩後輩関係なく、仲良く、元気に楽しいと思える学校にしていきたい。その想いは変わりません。まだまだ始まったばかりですが、積極的にたくさんの人と関わることで、多くの人に楽しい高校生活だと思ってもらえるように生徒会活動を頑張っていきたいと思います。



QUESTION

おのざわ先生に
きいてみよう



Q 忘れられないおやつはありますか?

A 20年程前のことになるが、「おのざわ～」と駆け寄ってきた生徒からタガメのフライをもらった。記憶が正しければ、おそらく10センチほどあるデカデカとした、みたこともない立派なタガメが揚げられて目の前に突き出される。「美味しいよ、どうぞ」って。反射的に湧き上がった心の声が、思わずそのまま口から出た。「何言ってんだ? 虫なんか食えるか?」と!そして断固として拒否してやった。が、生徒も引かない!「いや、食えるって! 美味いか

ら!」と。そのうち、バリバリと目の前で食べ始めるではないか。(冷静に振り返れば、職員室は基本的に飲食禁止だった!) 1個、2個、いや1匹、2匹か? 当然のように口に運んでいく。そして隣の生徒にもしれっとおすすめし、とうとう2人で食べ始めたのであった。結局、2人で持ってきたタガメを食べ尽くし、意気揚々と引き上げて行く2人の背中を見送ったのだった。

そして今度は5年程前、今度は昆虫食について力強く語る生徒が現れた。幸い目の前に実物を突き出され「さあ、どうぞ!」とはならなかったが、昆虫食の可能性と未来についてしっかり語られた。同じ時期だと思うが、確か新聞等メディアでも同じように取り上げられていたような気がする。世界は少しずつなのか、ドンドンなのか分からないが、必ず変わるし、変わらない訳がない。そのことはちゃんと理解しているし、受け止めているつもりである。でも、あの時出されたタガメを食べる勇気を、未だに持っている気はしない。多分、この先も食べることができない気がする。だから、食べ物や粗末にしてほしくない。肉も、魚も、野菜も好き嫌い言わずに、出されたものは極力残さず食べようと子どもたちに伝えたい。農業に、酪農に、漁業に! 心から感謝して、食事をしよう。再び、目の前にタガメのフライを出されないように。

REPORT

学校見学会実行委員を
やってみて

2年B組 内藤陽

私は委員会などに絶対に参加しないタイプの人間でした。遊ぶ時間や部活の時間は減るし、なにより人前で話すの苦手だし……。正直、しない理由なんていくらでも探せます。考えても思いつくのは嫌な理由(こと)ばかりのネガティブ思考な私ですが、ずっと「人として成長したい」と思っていました。それでも思うだけで何も行動してこなかったの、とりあえず何事も始めてみることにしました。やってみて、無理だったらやめればいい



のです。私のように最初の一步をなかなか踏み出せない人は、“とりあえず始める”というをやってみてください。1歩目は難しくても、2、3歩目は意外と楽しいかもしれません。

INFORMATION

全国で教育講演・相談会を開催します。

本校の教育についての講演会のあと、個別相談を実施しています。PTA・OBと直接お話することもできます。お気軽にいらしてください。

開催時間 : 13:30 ~ 17:00 (🌙 マークは18:30 ~ 20:45)

千葉県	
1月26日	金 18:30 ~ 20:45 貸し会議室グッドスペース 🌙
東京都	
2月3日	土 13:30 ~ 17:00 TIME SHARING四谷 9B
3月16日	土 13:30 ~ 17:00 ふれあい貸し会議室 渋谷No89

愛知県	
1月27日	土 13:30 ~ 17:00 ウィンクあいち
2月17日	土 13:30 ~ 17:00 ウィンクあいち
静岡県	
1月28日	日 13:30 ~ 17:00 貸し会議室UNIELL 静岡駅北口
大阪府	
2月4日	日 13:30 ~ 17:00 ドーンセンター
3月17日	日 13:30 ~ 17:00 ドーンセンター
福岡県	
2月18日	日 13:30 ~ 17:00 VILLENT博多グラン

編集後記

年に2回程、帰省の際に飛行機に乗る。空港で誰にどんなおやつを買っていくか考えて選んでいる時間が好きだ。北海道はおいしいものがたくさんあるから本当に迷うし、つつい自分の分も買ってしまう(笑) ルタオのドゥーブルフロマージュはマストです! (高崎麻美)

仕事でタイに行ってきました。暑さで倒れてしまわないように、屋台やコンビニの飲み物がどれも甘い。最初は「毎日美味しいジュースが飲めるなんて最高〜!」と思ってましたが、数日後には渋い日本茶が恋しくてたまらなくなりました。おやつも飲み物も、甘いものには適量がありますね。(石田愛実)

